

03.いのちの遊び場クラゲ館



誰でも五感を使って参加できる体験型パビリオン。国内外の著名人により製作したバリエーション豊かな楽器や遊具を白い大きな傘の下に配置。プロデューサーであり音楽家でもある中島氏は「さまざまな音の触れ合い、いろんな人と協奏し、共創しながら未来を作る」と語っている通り、傘の下では子どもたちがはしゃぎながら遊び、それを見守る家族が廻りを囲み、雨宿りや日差し避けを目的とした人々が混ざり合う。楽器の音色より子どもの活発な声が飽和していた。施設設計者の小堀氏は「建物ではなく場を創る」と語っている様に、スロープで誘導するように入れることが魅力の一つであり、それらがつつら状に形成され周囲の景色を見渡し感じながら体験することができた。屋根を支える骨組みは再利用可能な吉野杉がトラス状に組みられ一切の壁がなく構成された空間はパビリオン全体の一体感に繋がっており、ひとつの丘として構成されていた。それらを万人の持つ揺らぎと、どこか神秘的な魅力の主張としてクラゲが象徴的に表現されている。大屋根の下に遊び場を作り、象徴的な意味合いを持たせた構成はシンプルであり、『いのちを高める』というテーマがストレートに表現されていると感じた。